http://decfamily.p1.bindsite.jp/2018/

We 35R

No.392　18/06/18

色々な進路

　薬学部を卒業したら、どのような職業につくことが多いだろう？　35Rには現時点で薬学部系志望の人はいないのだが、ちょっと想像してみてほしい。

＊

　平成29年３月薬学系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査の結果報告」をもとにして作成した結果では、

　１位　薬局（39.3％）
　２位　病院・診療所（29.3％）
　３位　ドラッグストアなどの一般販売業（10.7％）
　４位　医薬品関連企業（9.9％）

となっている。大学卒業生も調査対象になっているので、６位に大学院進学（2.1％）も入っている。一方、薬学とは関係のない（少ない）方面に就職した人は、

　８位　その他職業（2.2％）
　９位　その企業（1.1％）
　10位　卸売販売業（0.8％）

だけで、極めて学部選択と職業の相関関係が高い印象である。

　今、「学部選択と職業の相関関係が高い」と書いたが、それでも実は知らないことがたくさんある。

　５位には「行政（3.1％）」があるのだが、具体的にはどういうことかというと、一つには当然のことながら厚生労働省である。国内で使用される医薬品に関わる政策を推進する部門などをになってゆくわけだ。薬剤師の国家試験運営に関わることもあるし、麻薬取締官として、麻薬をはじめとする違法薬物の取り締まりを担当することになる人もいるという。特に、薬剤師としての資格を生かして、鑑定業務を任されたりすることもあるようだ。地方公務員としては、各都道府県に置かれている薬務課と呼ばれる部局に入ったり、保健所や研究所に配属されて、地域の薬事や食品衛生、環境衛生に関わる指導をになう人材として活躍することになる。

　関連するものとして、例えば厚生労働省と連携して新薬の審査に携わる「医薬品医療機器総合機構」に勤めることになった人、臨床開発を専門に行うCRO（Contract Reserch Organization＝開発業務受託機関）に勤務することになった人などもいるし、警察の科学捜査研究所で、ヒトの体から採取されたものの検査・鑑定などを業務とすることを選択した人もいる。

　その他、興味深いのは、最近スポーツ界で話題になっているアンチ・ドーピング活動に関わる仕事。スポーツ・ファーマシストとして認定されると、選手などに対して薬の正しい使い方などの知識を普及・啓発する活動をすることになる。薬剤師としての知識が、スポーツ界を支える大切な柱になりつつあるわけで、薬剤といった面からスポーツに生涯関わってゆくことが可能になるわけだ。

＊

　ということで、今回、目にした薬学部の資料から紹介したが、その学部に実際に行ってみないと分からないことはいっぱいあるのである。将来の方向がハッキリしないで悩んでいる人も多いだろうが、大学・大学院に行けばさらに視野が広がる。だから、今は基本「好きなこと」（好きな科目）をメインに進路を考えればよいのではなかろうか。